

三條別院のご案内

三條別院に想う

今から三十五年ほど前になります。毎年十月になると、ここ三條別院を会場にして三條宗偏流のお茶会が開かれていました。私はそのお茶会がいつから始まったのかは知りませんが、それは今も続けられているそうです。
三條は比較的宗偏流という流派が多い地域のように思います。

宗偏流の開祖である山田宗偏は大谷派寺院のお生まれということもあり、そのご縁でこのお茶会が三條別院で開かれるようになったのではないかと思います。

本堂に入るとそこは広く、ひんやりとした空気と静寂に包まれ、そのなかにほんのりとお香のかおりが漂う。まさに別世界の雰囲気を醸し出していました。茶席は濃茶席、薄茶席、野点席に点心席と何席もあり、寄付には多くの人が席待ちをしながら席に入る時間もなく、お菓子だけをいただいて帰ることもあるほど盛況でした。

別院は三條の中心にあり、別名「ごぼさま」とも呼ばれ三條市民に親しまれてきました。昔はお取り越しになるとみぞれが降り、とても寒かった。にもかかわらず参道にはたくさんさんの露

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

Email : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

店が並び、お祭りのような賑わいを見せていたことを子供心に覚えています。でもその露店や参拝者も徐々に寂しさを感じています。

この度本堂等が御修復され、とても立派で綺麗になりました。十一月五日のお取越し報恩講で御修復完了奉告法要がお勤めされ、大勢の方々にお参りいただいたことに喜びを感じます。本堂は私達真宗門徒が聞法する大切な場所であり、そのみ教えは心の依りどころです。

今年の五月には親鸞聖人の御遠忌法要が執り行われます。私はこの御遠忌法要をご縁に今後一人でも多くの方が三條別院に足を運んでくださることを切に願います。

第十八組勝念寺坊守 林 桂子氏



○次回の「三條別院に想う」は、

佐藤 洋子 氏 (第十二組西方寺) より

ご執筆いただきます。

勿忘（わすれな）の鐘 2015

三月十一日午後二時四十六分の東日本大震災発生時刻に梵鐘を撞き、その後本堂にて勤行・法話がございます。鐘を撞くことを希望される方は二時三十分には教区同朋会館に集合してください。

春 彼 岸 会 の ご 案 内

春彼岸会を左記の通り厳修いたします。有縁の方々をお誘いあわせの上、是非ご参詣下さい。

◇期日 三月二十二日(日) ～ 二十四日(火)
◇日程および法話講師
二十二日(日)
午後〇時三十分～

東日本大震災復興支援チャリティーバザー
ダクシメルオモイ展
午後一時三十分より逮夜法要

引き続き 小林 憲明氏講演会

二十三日(月) 午前十時より永代経総経

法話 佐々木憲雄氏 (第十五組光善寺)

おとぎ (正午)

午後一時三十分より逮夜法要

法話 ひき続き 佐々木憲雄氏

二十四日(火) 午前十時より日中法要

法話 齊藤 研氏 (第十五組正楽寺)

①二十三日の正午に、おとぎを賞加金一千元にて、「用意いたしますので、ご希望の方は三月十六日(月)までに当別院までご連絡下さい。」

② 二十二日午後〇時三十分〜午後四時まで、旧御堂会場に東日本大震災復興支援写真展示・チャリティーバザーを開催いたします。

③ 二十二日午後〇時三〇分〜午後四時まで、二十三日・二十四日午前九時〜午後四時まで、本堂を会場に東日本大震災をきっかけとした親が子を抱きしめる姿を描いた「タキシメルオモイ展」を開催いたします（入場無料）。二十三日の速夜法要後には、作者の小林嘉明氏による講演会があります。



第二十三組別院巡回報告



去る二月二十六日、阿賀野市のコミュニティセンター「瓢湖憩の家」にて第八回を数える第二十三組別院巡回が開催されました。昨年は本堂

修復に伴う宗祖真向御影巡回

まむきのこえい

でしたが、本年は通常通り御本尊をお迎えしての巡回です。当日は八十九名の僧侶・門徒が集まり、勤行と聞法を行いました。

勤行は同朋唱和で皆さん一緒にお勤めし、その後、池守輪番による法話がありました。「罪福心」をテーマに、時には、門徒に立ちあがっていただき、例えに参加して頂きながらの法話に、皆さん深



く領いておられました。ご門徒の自家製の漬物や甘酒をいただきながら、和やかな本年の巡回でした。

第十九組改観寺雑巾講報告

毎年、三条別院で使用する雑巾を御寄附頂いている第十九組改観寺の雑巾講。なんと二百枚を超える雑巾を毎年縫って頂いています。本年もそのお講のお手伝いをさせて頂いていただきました。作業の途中には雑巾講の雑巾は何故手縫いなのかといった会話をしたり、二胡の演奏や御当院の歌やうどんの振舞いなど楽しみました。雑巾講は改観寺の御門徒だけでなく、近隣の方も寄り合っていて、まさに地域のコミュニティとしてのお寺の姿であると感じました。



宗祖御命日の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

【三月二十八日（土）】

午前十時 お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 行四句目下

念仏讚 洵五

和讃 回口 次第第六首
回向 願以此功德

◎今月の法話講師

本多 智之氏（第十八組 永傳寺）

◇今後の講師一覧

- 四月 小柳 巴晃 氏（第十九組 明願寺）
- 五月 渡邊 智龍 氏（第十八組 恩長寺）
- 六月 田中 博之 氏（第十三組 万休寺）

定例法話会

毎月十三日の前門首のご命日（両度の命日）に行っている定例法話会を左記の通り開催いたします。

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後一時三十分より（二時間程度）

◇場所 三条別院 旧御堂

◇講師

二月〜四月

大藤 赳磨氏（第十組 勝願寺）

五月〜七月

小林 智光氏（第十二組 淨照寺）

◆二月から三条真宗学院の仏教学講師の大藤氏に、仏教史・真宗史を中心に全三回でお話をいただいております。越後の真宗史にも言及していただく予定です。



◆五月からは小林氏に「源氏物語と仏教」日本文学と仏教」という内容でお話しいただきます。

その他の講座案内

○別院声明教室(全五回)

(月一回水曜日、午後六時〜八時)

①一月十八日(済) ②三月十八日③四月十五日

④五月十三日⑤六月十七日

講習内容 正信偈 草四句目下

講師 真島修智氏(第十六組 光侍寺)

参加費 五〇〇円/回



○別院書道教室

(月一回第二、第四水曜日、午後六時三十分〜八時)

講師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

月謝 一五〇〇円(テキスト代含む)

随時募集中

○三条別院巡回

三条別院の御影をお迎えして、開法会を開催しませんか?

○別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日一五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○別院特別参拝

皆様の御懇念により御修復が完了した本堂・講殿を案内いたします。

◎日程

・勤行(修復の完了した本堂にて同朋唱和)

・三条別院の歴史について

・宗祖御遠忌法要概要説明

・諸殿拝観(修復箇所を中心に説明いたします)

本堂・旧御堂・書院・同朋会館・駒札

◎冥加金 金額は定めておりません。

◎その他 お土産に「越佐の国三条別院なむの里」をお求めの場只、事前にご連絡ください。

○三条別院有志の会

清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。参加希望は別院まで。

同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所に「ごさいます」宿泊者帳に記帳してください。その後シーツクリーニング代五〇〇円とシーツを交換させていただきます。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

私たち、別院有志の会です!(会員の声)



三条に住まいして約三十年。一度も訪れたことのなかった「別院」に私が初めて足を踏み入れたのは平成二十一年六月末日の事。手次寺の坊守様に足を運んでいただき、あることのお話しをお聞きする為でした。

その時お朝事の事を知り、顔を出させていただく様になりました。そこにはほぼ毎日おいでの方、通い続けて十年以上の方等、それまでの自分には考えられない方々との出会いでした。そして何故この人達はそうまでして別院のお朝事に通うのか考えてみました。

第一には、もちろん声明です。

第二には、法話の後にある座談です。お話を聞くことももちろん大切なことと思いますが、それに対し各自が素の思いを隠すことなく、ありのままを話す事の出来る事かと思えます。その他色々な魅力に出会い。朝な夕なに足を進める事となり、気付けば有志の会に入り、報恩講のお手伝い、年の瀬のお磨き等をさせていただく事のうれしさを感ぜさせていただいた自分がありました。

ただ今の私は、勤めの関係もあり、なかなか足を運ぶことも出来ない有志の会の劣等生です。でも、新しくおいでの方で、毎日休み無く足を運んでおられる方もいらっしゃいます(頭が下がります)。

「別院」は、私にとって開法の原点です。ぜひ皆さんも一度足を運んでみてください。今までに感じた事の無い出会いに心打ち震える事と思えます。私も出来るだけ時間を作り、皆さんと出会える様にしたいと思います。有志の会の劣等生 坂井でした。(坂井二美男氏)

◆◆編集後記◆◆

年が明けて早々のことである。御遠忌法要の式支配の一人が楽太鼓の借用に別院を尋ねてこられた。私が「もう御遠忌の年になってしまいましたね…」と力なくいうと「いよいよ御遠忌だね!燃えてきたね!」力をこめて言われた。その明るさを前に、もはや腹をくくって燃え尽きてしまおうと思ったことでした。(斎木)